

持ち帰りアイス店拡大

高松発、地方狭小地で開業

高松発のテイクアウト専門のアイス店が全国に拡大している。2022年春に高松市と岡山市で直営店が開業し、今春以降に岐阜や山梨などの5県でフランチャイズチェーン(FC)店がオープンした。地方のロードサイドにある数坪の狭い土地で開業できることが強みだ。24年春以降も新店開業が控え、冬の閑散期を補うドーナツを開発中だ。

平日は夕方開店 シメ需要に照準

アイス店の名称は「月曜からアイス」で、高松市で居酒屋を運営するNOBISIRO(同市)の浜田晋平社長が開業した。最大の特徴は営業時間と立地条件だ。平日の営業は夕方からで、深夜12時もしくは翌日の午前1時まで。仕事帰りの小腹を満たしたい人の需要や、夕食後にアイスで「シメる」といった利用を見込む。全店とも週末の開店は午後2時からだが、閉店時間は平日と同じだ。店舗面積は5坪(約16



月曜からアイスを仕掛けた浜田社長(高松市)

時期	概要
22年春	直営店が高松市と岡山市に開業
11月	事業会社を設立。FC専門YouTubeチャンネルで情報発信
23年4月	FC1号店が岐阜市に開業
5月	FC店が埼玉県深谷市、新潟市、山梨県富士河口湖町に開業
7月	FC店が青森県弘前市に開業
10月	直営ドーナツ店が高松市に開業



「月曜からアイス」は夕方から深夜にかけてのアイス需要取り込みを狙う

湖・山梨の3県、7月に青森県にも設けた。地方都市をターゲットとし、現時点では東京都や愛知県、福岡県や兵庫県などは出店予定がない。浜田社長は「大都市圏でのFC加盟の希望者もいたが断った」と話す。直営2店舗の採算は「苦戦している」(浜田社長)ものの、FC店は好調に推移。繁忙期には月間の売上高が650万〜700万円に達する店舗もある。浜田社長は「ドーナツやシュークリームなど季節を問わない商品に『月曜から』ブランドを付けて展開したい」と話す。

JR四国、20億円ファンド

地域活性化事業に出資

JR四国は3日、プライベートエクイティ(P E)未公開株)ファンドを設立したと発表した。四国地域の活性化につながる事業を展開している売上高が数億から数十億

香川の2信金も共通化

相続手続き 県内5金融機関に

高松信用金庫(高松市)と観音寺信用金庫(香川県観音寺市)は2日、預金などの相続手続きの共通化を始めた。実施済み増加が見込まれる中、各金融機関が連携して利用者の利便性を高める。手続きの共通化は百十

人事
(地名は支店長)
徳島大正銀行
(10月2日) 貞光 敷島浩二

事後、香川県丸亀市で7年ほど居酒屋を運営。高松市の居酒屋はコロナ禍の20年秋に開業させ、月曜からアイス事業を立ち上げた。深夜帯のアイス専門店では「21時にアイス」が業界の先駆けで、全国に数十店舗を展開している。(亀井慶二)

・千代田)が担う。運用後は新規株式公開(IP O)なども選択肢に含めている。

出資先の企業の本社所在地は四国に限定せず、四国地域の活性化につながるという条件を満たせば全国から探す。条件を満たせば、売上高が数億円から数千万円のスタートアップなども出資対象になる可能性がある。

から始め、香川県信用組合(高松市)が8月に加わった。相続手続き依頼書の様式や記入方法などが共通化された。簡素化の基準も統一されて煩雑な相続に関する手続き負担が減少するが、必要書類は各金融機関ごとに異なる。香川